



中国語の重ね型形容詞における感覚共有性：単音節形容詞が意味核となる重ね型を中心に

著者	桂 ？
雑誌名	言語学論叢 オンライン版
巻	10 (通巻36)
ページ	1-15
発行年	2017-12-09
URL	http://hdl.handle.net/2241/00151280

中国語の重ね型形容詞における感覚共有性 —単音節形容詞が意味核となる重ね型を中心に—

桂 雯

要 旨

本稿は、中国語における単音節形容詞が意味核となる重ね型形容詞を研究対象として、五感を表す単音節形容詞が重ね型形容詞になった後、その感覚共有性の変化を考察した。まず、五感を表す単音節形容詞 A と重ね型 AA との比較から、A の感覚種類と AA の感覚種類が同じであることがわかった。しかし、A の感覚は好感的な内容と嫌悪的な内容があるが、AA になった後はより好感的な内容を表すようになる。次に、A と A が重ね型接尾成分と結合した Ass とを比較した結果、Ass になると表せる感覚種類が減り、感覚内容も ss により具体的になることがわかった。最後に、A と重ね型接頭成分と結合した ppA とを比較した結果、Ass と類似した特徴が見られた。A が ppA になると表せる感覚種類が減り、pp の影響を受けて意味がより具体的になった。まとめると、A の重ね型 AA は感覚の好感度の変化を見せ、Ass と ppA は感覚種類と感覚の具体化といった具合に感覚共有性の変化が見られた。

キーワード

重ね型形容詞 感覚種類 感覚の好感度 感覚の具体化 感覚共有性

1 研究対象と目的

中国語の造語法の中には重ね型というものがある。名詞、動詞や形容詞など、品詞を問わずに重ね型にすることが可能であるが、重ねることにより意味も品詞も変化する場合がある¹。形容詞においても、重ねることで語彙の生産ができるようになった。例えば(括弧内は一例)、AA 型(白白)、A₁A₁A₂A₂型(白白嫩嫩)、A₁A₂A₁A₂型(惨白惨白)というものがある。

本稿の「重ね型形容詞」とは、意味核が単音節形容詞であり、重ね型も形容詞であるものに限定する。なぜならば、研究目的が「重ねる」という造語法による意味変化を明らか

¹ 重ねた後意味変化と品詞変化の例：泪汪汪，血淋淋，婆婆妈妈，坑坑洼洼など。

にすることであるので、比較する際に影響を及ぼす要因を最小限にするためである。

対象とする形容詞の範囲も感覚を表す形容詞に限定する。なぜなら、全形容詞を対象にすることは語数的に困難であり、その上で語数が多い形容詞の範疇は感覚形容詞であり、かつ感覚形容詞は重ね型による造語生産性が高いからである。

意味核は A で、重ね型として AA という完全重ね型だけでなく、Ass 型(白皚皚)、ppA 型(煞煞白)という不完全重ね型もある。つまり、意味核になる単音節形容詞 A の前後に接尾辞(s)と接頭辞(p)が重ね型として結合したものである。本稿では、Ass、ppA も研究対象にする。

なお中国語の形容詞のうち、五感を表す単音節形容詞の意味を調べてみると、複数の感覚を表せるもの(本稿では A とする)がある。複数の感覚を表せる現象が感覚共有であり、表せる感覚の数が多いほど感覚共有性が高いと言える。意味変化を鮮明に見るには感覚共有性のあるものを対象にするのが効率的だと判断し、二つ以上の感覚を表す単音節形容詞 A を 14 語選定し、分析する材料にする。

以上のことから、本稿では感覚共有性を持つ A と、A を意味核とする重ね型形容詞(AA、Ass、ppA)と比較することで、「重ね型」という造語法の持つ意味変化を明らかにする。

2 先行研究と問題提起

中国語の重ね型形容詞において、感覚表現と結び付けて考察する先行研究は僅少である²。感覚表現と直接に関係する先行研究として、擬音語の擬態語化に焦点を当てる趙寅秋(2014)、ABB 型形容詞における共感覚的比喩(synaesthetic metaphor)を分析した肖潇(2012)と、井出(2001)および王晓炜(2002)があげられる。趙寅秋(2014)は、擬音語 BB は ABB 型形容詞になる際に、メタファーやメトニミーを介して意味拡張を起こしたと述べている。肖潇(2012)によれば、ABB 型では BB が A を修飾する関係で共感覚的比喩が生成されるので、ABB の表す感覚がより多様になったとされている。また、井出(2001)は、ABB 型形容詞の BB に着目し、“硬梆梆” “冷飕飕” “香扑扑” のように、擬音語由来と考えられる接尾辞 BB のために、聴覚という感覚を比喩的に意味に加えることができ、共感覚的比喩を比較的一般的な表現と見なすことも可能であると述べている。すなわち、聴覚を表せない A に、聴覚を表す BB が比喩的に付加され、感覚共有語になったといえよう。

反面、王晓炜(2002)は井出(2001)と肖潇(2012)とは異なる視点から見たものである。王晓炜(2002)では、ABB 型形容詞は BB というニュアンスによって、意味がより精確になると述べている。

² 本稿での重ね型形容詞と先行研究での重ね型形容詞はその範囲が異なる場合もある。例えば、趙寅秋(2014)の ABB の B は接尾辞の s に該当する。

以上のように、単音節形容詞 A が ABB となった後、感覚の多様化が起きるかどうかにおける二つの見解が見受けられる。感覚の多様化が起きるかどうか、および起きたらどのような様相が現れるのかを明らかにするために、本稿では、感覚共有語という意味解釈から BB による感覚共有の可能性を探りたい。

また、AA 型形容詞についても同様な立場で重ね型にすることにより感覚共有の可能性が変化するのかを分析する。AA 型の先行研究には、「量」に着目して分析するものが多い。特に、王国栓(2004)は、AA 型形容詞が常に量の増加を表すと述べている。しかし、王峰(2015)は、比較の基準や表量のレベルシステムの二つの方面の調査から、「量の増減」を表すのが形容詞の重ね型の主要な機能ではないと結論した。コーパスの分析を通して、王峰(2015)は中国語単音節形容詞の重ね型 AA はカテゴリーの中の理想的なメンバーを指すと異論を述べた。具体的にいうと、重ね型と形容詞の原型は同じ範疇に属するわけではなく、原型は基本レベル範疇を代表しており、重ね型が代表するのは原型の下位範疇である。重ね型が表すのは常に原型の中での理想的なメンバーであり、幅は原型より狭い。したがって、重ね型と量の増減を表すことの間に、より複雑な関係があると述べられている。ここで、AA 型形容詞における感覚表現が表す感覚的意味も原型より狭いのかという疑問が残る。

以上の疑問から、本稿では重ね型形容詞における感覚表現を、感覚共有性の面から考察する。

3 本稿の語彙収集と表記方法

本稿で分析材料として使う語彙は、牟云峰(2005)および『現代汉语重叠形容词用法例释』から収集した。

研究対象となるものを選定するために、本稿では先行研究の分類を踏まえて、重ね型形容詞をさらに細分類して表記する。一音節を一つのアルファベットで表記し、重ね型形容詞の意味核となる語は形容詞の場合、単音節形容詞を A と表記する。したがって、A が完全に重複すると AA と表記する。意味核となる語は名詞の場合は N、動詞の場合は V と表記する。接頭成分を p、接尾成分を s と表記する。たとえば、“白皑皑”は Ass 型、“血淋淋”は Nss 型、“溜溜平”は ppA 型である。本稿の研究対象は AA、Ass と ppA である。

重ね型の意味核となる単音節形容詞 A は、牟云峰(2005)がまとめた感覚を表す単音節形容詞の中から複数の感覚を表すものを 14 語選び、AA 型と比較するリストを作った。Ass 型は、前述の 14 語の A を参考に、対象となる Ass 型を『現代汉语重叠形容词用法例释』から 49 語収集した。ppA 型は、『現代汉语重叠形容词用法例释』に収録されたものから、

対象となる 5 語を収集した。合計すると、AA 型 14 語、Ass 型 49 語、ppA 型 5 語であり、これらの語を本稿の研究対象の語彙とする。

4 AA 型における感覚共有性

感覚共有語について、本稿は井出(2001)の定義を使い、「一語内に異なる感覚的意味を持つもの」とする。また、感覚共有語が持つ性質は「感覚共有性」とする。井出(2001)は、日本語と比べて中国語では日常語レベルで用いられる共感覚的比喩がかなり限られていると述べ、その原因は中国語の「感覚共有語」の存在にあると推論した。井出(2001)がまとめた感覚共有語はすべて単音節形容詞であるが、本稿は単音節形容詞 A が意味核となる AA、Ass と ppA を、A と比較し、重ね型になった後の感覚的意味がどのように変わったのかを調べる。

まずは AA 型形容詞について分析する。収集した 14 語の単音節形容詞とそれを重ねた AA 型とを、表す感覚的意味(五感)の面から比較した。結果は表 1 にまとめた³。

表 1 A と AA 型が表す感覚の比較

語 型	臭	粗	低	高	苦	亮	辣	冷	暖	涩	酸	甜	细	香
A	味 嗅	触 視 聴	視 聴	視 聴	味 嗅	視 聴	触 味 嗅	触 視 聴	触 視	触 味	触 味 嗅	味 嗅	触 視 聴	味 嗅
AA	味 嗅	触 視 聴	視 聴	視 聴	味 嗅	視 聴	触 味 嗅	触 視 聴	触 視	触 味	触 味 嗅	味 嗅	触 視 聴	味 嗅

表 1 に示したように、主な感覚共有語は AA 型になっても表す感覚的意味が変わらない。“亮”を例として見れば、下記のようなになる⁴。

(1)a. 四周光线不是很亮，在楼梯的拐角处有一面大镜子。(視)

(周りの光はそんなに明るくなく、階段の曲がり角に大きい鏡がある。)

³ 五感を並べる順番は井出(2001)がまとめた中国語の感覚発達方向によるのである。

⁴ 本稿が挙げた例文は、すべて CCL (北京大学漢語語言学研究中心コーパス) によるものおよびそのキーワードを入れ替えたまたは少し言い方を変えたものである。

b. 他那尖锐而镇静的声音很高很亮，听起来好像与这种情况不大适宜。(聽)

(彼のきつくて冷静な声はとても高くて、明るいので、このような場所にふさわしくなく聞こえる。)

(2)a. 太阳圆圆的亮亮的，把我包裹起来，也包裹了整个世界、整个北京城。(視)

(丸くて明るい太陽は、私を包んで、世界も北京城も包んでいる。)

b. 这些天郑小瑛家里电话响得震天，郑小瑛一遍一遍认真真地向人解释爱乐女解散的原因，原本亮亮的嗓音一天之内累得哑黯了。(聽)

(この間、鄭小瑛の家の電話がずっと響いている。鄭小瑛は何度も何度も人にフィルハーモニー楽団が解散した原因を説明しているので、もともと明るい声が疲れのために、1日のうちにかれて暗くなった。)

(1)a と(1)b から、“亮”は視覚上の明るさも聴覚上の明るさも表現できることがわかる。

(2)a と(2)b が示すように、“亮亮”になっても同じく視覚と聴覚の意味を表せる。また、“暖”も同様に、触覚と視覚両方の感覚的意味を表すことができる。

(3)a. 屋子里的暖气烧得正合适，很暖，但是不太热。(触)

(部屋の暖房温度がちょうどいい具合で、暖かいが、暑くない。)

b. 如果肤色为暖色调，你会选择以下哪种发色？(視)

(肌の色が暖色系だったら、以下のどの髪色を選ぶの？)

(4)a. 外婆最爱做的事，便是坐在暖暖的大太阳地里，看着我在她跟前玩，给我做鞋。(触)

(おばあちゃんが一番好きなのは、暖かい日差しの中で座って、私がそばで遊んでいるのを見ながら、私の靴を作ることだ。)

b. 我们的谈话一直在继续，宾馆里暖暖的灯光映在耶女士的脸上，更显出一种温和的美。(視)

(私たちの会話は続いている。耶さんの顔にホテルの暖かいライトが当たって、さらに優しい美しさが現れた。)

このように、単音節形容詞 A を重ねた AA 型形容詞が表す感覚的意味は、A と変わらないことが分かった。感覚的意味が重ねることにより変化しないとすれば、次は機能の面から表す程度に着目して例文を見ながら考察していく。

(5)a. 消防厅说，盆里的衣服能够起火，是因为不锈钢盆很亮，在太阳光下有聚光作用。(視)

(消防庁によれば、洗面器の中の服が燃えたのは、ステンレスの洗面器が明るくて、太陽の下で集光作用を受けたからだ。)

- b. 他那尖锐而镇静的声音很高很亮，让人听着头疼。(聴)

(彼のきつくて冷静な声はとても高く、明るいので、聞いていて頭が痛くなる。)

- (6)a. *消防庁说，盆里的衣服能够起火，是因为不锈钢盆亮亮的，在太阳光下有聚光作用。

(視)

同(5)a

- b. *他那尖锐而镇静的声音亮亮的，让人听着头疼。(聴)

同(5)b

(5)a と b は“亮”が視覚と聴覚を表す例である。(5)a の“很亮”は「ステンレス洗面器が明るすぎて集光するので、自然燃焼になってしまう」という意味を表し、(5)b の“很亮”は「声が細すぎて人に不快感を与える」という意味を表し、どちらも望ましい範囲を超える程度の明るさである。(6)a と b は(5)の“很亮”と“亮亮的”を入れ替えて、不自然になった文である。文が不自然になった原因は、AA 型が常にカテゴリーの中の理想的なメンバーを表す(王峰 2015)からである。すなわち、AA 型は程度が極端に高いまたは低いなどの非理想的なものを表せないため、(5)a と b のような文には使えない。では、“亮亮的”と“很亮”を入れ替えるとどうなるかを以下の例文から確認しよう。

- (7)a. 太阳圆圆的，很亮，把我包裹起来，也包裹了整个世界、整个北京城。(視)

(丸くて明るい太陽は、私を包んで、世界も北京城も包んでいる。)

- b. 这些天郑小瑛家里电话响得震天，郑小瑛一遍一遍认真真地向人解释爱乐女解散的原因，原本很亮的嗓音一天之内累得哑黯了。(聴)

(この間、鄭小瑛の家の電話がずっと響いている。鄭小瑛は何度も何度も人にフィルハーモニー楽団の解散した原因を説明しているので、もともと明るい声が疲れのために、1 日のうちに暗くなった。)

(7)a と b は、(2)a と b の“亮亮的”と“很亮”を入れ替えた文であるが、a と b のどちらも自然な文として成立する。例文(7)を例文(5)(6)と合わせると、“很亮”は“亮亮的”と言い換えられないが、“亮亮的”は“很亮”と言い換えられる。つまり、A は理想的なメンバーも非理想的なメンバーも表せるが、AA になると理想的なメンバーしか表せなく

なったと考えられる。

このように、(6)a と b で A と AA 型 を入れ替えた後に不自然になるのに対し、(7)a と b で AA 型と A を入れ替えても自然な文になるのは、A と AA 型が表す感覚的意味の範囲(以下: 意味範囲)が異なるからであると言える。A が AA 型になると、極端に高いまたは低い程度の意味を表せなくなることから、AA 型の意味範囲は A のカテゴリー内の一部分であると考えられる。この点については、王峰(2015)の主張と一致している。

以上、“亮”と“暖”のようにポジティブな意味の形容詞における重ね型の意味変化を考察したが、ネガティブな意味を表す形容詞の場合についても、“臭”の例文を通して分析する。

(8)a. 他的手很臭，但我没有说什么。(嗅)

(彼の手が臭いが、私は何も言わなかった。)

b. 他的手臭臭的，但我没有说什么。(嗅)

(彼の手が臭いが、私は何も言わなかった。)

刘月华(1983)は、AA 型は A より描写性が強まり、「好感」という感情的ニュアンスが加わると述べている。(8)a と b が表す感情的ニュアンスから見ると、刘月华(1983)が述べたように、b は a より臭さの程度が低くなり、マイルドになったと感じられる。すなわち、ネガティブな意味を持つ AA 型は、重ねることにより意味がマイルドになり、A のカテゴリーの中の比較的理想的なメンバーを表すようになる。

以上の考察から、ポジティブな意味を表す AA 型もネガティブな意味を表す AA 型も、A のカテゴリー内の一部分であり、単音節形容詞 A が重なって AA 型になった後の感覚的意味は変わらないが、意味範囲は狭くなったことが分かる。すなわち、重ね型形容詞は重ねより感覚共有性は変わらないが、意味範囲の面で意味が狭められるといえる。

5 Ass における感覚共有性

AA 型の次に、Ass 型形容詞について分析する。収集した対象となる 49 語の Ass と意味核 A との比較を表 2 にまとめた。一番左の列は意味核 A であり、右は Ass である。5 種類の感覚以外の感情を表す場合は「感」と表記する。また、A で表せるが Ass になった後に表せなくなる感覚と、A で表せないが Ass になった後に表せるようになる感覚は、網掛け文字で表記する。

表 2 A と Ass 型が表す感覚の比較

臭 味 嗅 視	臭烘烘 嗅	臭哄哄 嗅	臭乎乎 嗅	臭熏熏 嗅				
粗 触 視 聽	粗墩墩 視							
高 視 聽	高挑挑 視							
光 触 視	光滑滑 触 視	光亮亮 視	光溜溜 触 視	光闪闪 視	光堂堂 視	光秃秃 視		
辣 触 味 嗅	辣蒿蒿 触 味 嗅	辣乎乎 触 味 嗅	辣丝丝 触 味 嗅					
冷 触 視 聽	冷冰冰 触 聽	冷淡淡 感	冷静静 聽	冷凄凄 感	冷清清 感	冷森森 触	冷飕飕 触	冷嗖嗖 触
亮 視 聽	亮光光 視	亮晶晶 視	亮闪闪 視	亮堂堂 視	亮铮铮 視			
暖 触 視	暖烘烘 触	暖乎乎 触	暖和和 触	暖融融 触	暖煦煦 触	暖洋洋 触		
酸 触 味 嗅	酸溜溜 触 味 嗅							
甜 味 嗅	甜津津 味 嗅	甜蜜蜜 味	甜丝丝 味 嗅	甜滋滋 味	甜膩膩 味			
细 触 視 聽	细溜溜 視	细条条 視						
香 味 嗅	香馥馥 嗅	香喷喷 嗅						
油 触 視	油光光 視	油乎乎 触 視	油腻膩 触 視	油汪汪 視	油渍渍 視			

Ass 型形容詞について、石椀(2010)は A と ss の意味関係が Ass の意味の変化する方向

を決めると述べている。そこで、感覚的意味を表す側面から、Ass と A の関係を考察する。

5.1 一種類の感覚を表す Ass

表 2 からわかるように、A は複数の感覚を表す反面、Ass は一種類の感覚を表すものが多い。たとえば、前節で例を出した“亮”が意味核となる Ass 型の“亮晶晶”と“亮堂堂”は、視覚的意味しか表せない。

(9)a. 夏秋の清晨，我们常可在一些草叶上看到一颗颗亮晶晶的小水珠，这就是露。(視)

(夏秋の朝、しばしば草や葉の上できらきら光っているしずくが見られるが、これは露だ。)

b. *这些天郑小瑛家里电话响得震天，郑小瑛一遍一遍认真真地向人解释爱乐女解散的原因，原本亮晶晶的嗓音一天之内累得哑黯了。(聴)

(*この間、鄭小瑛の家の電話がずっと響いている。鄭小瑛は何度も何度も人にフィルハーモニー楽団の解散した原因を説明しているので、もともときらきら光っている声が疲れのために、1 日のうちにかれて暗くなった。)

(10)a. 我们大踏步向洞口走去，快到洞口，电来了，洞里一片亮堂堂。(視)

(私達は大股で洞穴へ向って歩いて、洞穴の入り口に着きかけたときに電気がついたので、洞穴の中は明るくなった。)

b. *他那尖锐而镇静的声音亮堂堂的，让人听着头疼。(聴)

(*彼のきつくて冷静な声はとても明るいので、聞いて頭が痛くなる。)

(9)a と(10)a は、“亮晶晶”と“亮堂堂”が視覚の明るさを表す文であるが、(9)b と(10)b は、(1)b と(7)b における聴覚を表す“亮”と“亮晶晶”および“亮堂堂”を入れ替えて不自然になった文である。このように、“亮”は視覚と聴覚両方の明るさを表すことができるが、“亮晶晶”と“亮堂堂”になると、明るさだけでなく、接尾成分“晶晶”と“堂堂”により、きらきら輝くという意味を持つようになり、聴覚的意味を表すことはできなくなっている。

また、触覚と視覚両方を表せる“暖”も同様に、“暖烘烘”“暖乎乎”“暖洋洋”とすると触覚しか表せなくなった。以下の例文で確認できる。

(11)a. 于是，我们被迎进暖烘烘的屋子里。(触)

(そこで、私達は迎えられてぽかぽかと暖かい部屋に入った。)

- b. *我们的谈话一直在继续, 宾馆里暖烘烘的灯光映在耶女士的脸上, 更显出一种温和的美。(視)

(*私たちの会話は続いている。耶さんの顔にホテルのぽかぽかと暖かいライトが当たって、さらに優しい美しさが現れた。)

- (12)a. 他幻想着仿佛已经走进了那带点汗臭味暖乎乎的屋子里, 躺下睡起来。(触)

(彼はまるで汗臭くてぽかぽかと暖かい部屋に入ったのを空想しながら、横になって寝た。)

- b. *我们的谈话一直在继续, 宾馆里暖乎乎的灯光映在耶女士的脸上, 更显出一种温和的美。(視)

同(10)b

- (13)a. 一天中午, 太阳暖洋洋地罩着, 正是春暖花开的季节。(触)

(ある日の昼ごろ、太陽に暖かく包まれて、正に花が咲く春だ。)

- b. *我们的谈话一直在继续, 宾馆里暖洋洋的灯光映在耶女士的脸上, 更显出一种温和的美。(視)

同(10)b

(11)(12)(13)の a は“暖烘烘”“暖乎乎”“暖洋洋”が触覚の暖かさを表す例文であるが、b は視覚を表現する例文に“暖烘烘”“暖乎乎”“暖洋洋”を使用して不自然になったものである。

このように、“亮”と“暖”のような感覚共有性を持つ単音節形容詞が Ass になると表せる感覚的意味が減ってしまうことは、明らかに接尾成分の ss と密接に関係していると考えられる。ss は意味を持つものや擬音語由来で具体的な意味を持たないものなどがあるが、A の接尾成分として後ろに来ると、A が表す意味を特化させ、限定する方向へと意味範囲を規定する。つまり、A の表す感覚的意味が ss によって限定され、Ass の感覚共有性が弱くなる、またはなくなるということである。

一方、井出(2001)によれば、“硬梆梆”“冷飕飕”“香扑扑”のような ss が擬音語由来の Ass 型は、聴覚の共感覚的比喻を一般的な表現と見なすことも可能である。つまり、ss が擬音語由来の Ass 型は A の本来の意味以外、一般的な表現として聴覚的意味も表せるといわれている。しかし、(14) から分かるように、Ass の ss に含まれる聴覚的意味は、一般的な表現として聴覚を表せないことがわかる。

(14)a. 除了冷冷的寒风声，偌大的山林中幽静得很。(聽)

(冷たい風の音以外、この広い山林はとても静かだ。)

b. *除了冷飕飕的寒风声，偌大的山林中幽静得很。(聽)

(*冷え冷えとする風の音以外、この広い山林はとても静かだ。)

(14)の a は“冷冷”が冷たい風の響きを表すものであるのに対し、b は“冷飕飕”に入れ替えて不自然になった文である。“冷飕飕”は接尾成分の“飕飕”により確かに聴覚の意味も含まれるイメージになったが、直接に一般的な表現として聴覚を表すことはやはりできないのである。つまり、“冷飕飕”のような ss が擬音語由来の Ass 型は、ss に聴覚の意味が含まれるにもかかわらず、直接に聴覚を表すことができないと言えよう。

5.2 感覚共有語としての Ass

また、表 2 に示すように、一種類の感覚しか表せない Ass が多いが、感覚共有語の Ass も存在する。下記の 11 語である。

① 触覚、味覚、嗅覚：辣蒿蒿、辣乎乎、辣丝丝、酸溜溜

② 触覚、視覚：光滑滑、光溜溜、油乎乎、油腻腻

③ 触覚、聴覚：冷冰冰

④ 味覚、嗅覚：甜津津、甜丝丝

この 11 語のうち、“冷冰冰”については、意味核 A と比べると表す感覚的意味が減っている。“冷”は触覚、視覚、聴覚を表せるが、“冷冰冰”は触覚と聴覚だけを表し、視覚を表せない。残る 10 語は表す意味が A と変わらないが、使用場面は同じではない。“酸溜溜”を例として見てみよう。

(15)a. 努儿临走时说：“这果子个儿小，而且可能很酸，不过好歹也是桔子。”(味)

(ヌアルが発発する前に、この果実は小さくて、酸っぱいかもしれないが、良くも悪くもみかんだといった。)

b. * 努儿临走时说：“这果子个儿小，而且可能酸溜溜的，不过好歹也是桔子。”(味)

同(15)a

(16)a. “让普罗赛尔宾娜今天晚上把你的舌头蘸上酸溜溜的甜酱吃掉，你这老梅该拉！”(味)

(「今晚プロゼルピーヌにお前の舌を酸っぱいジャムをつけて食べさせてやろう

か。このメガイラめ！」)

- b. “让普罗赛尔宾娜今天晚上把你的舌头蘸上酸的甜酱吃掉，你这老梅该拉！”(味)
同(16)a

(15)a は“很酸”が味覚を表す例文であるが、b は a の“很酸”と“酸溜溜”を入れ替えて不自然になった文である。(16)は(15)の逆に、a は“酸溜溜”が味覚を表す例文であり、b は a の“酸溜溜”と“很酸”を入れ替えても成立する文である。前述と同様に、“很酸”を“酸溜溜”と言い換えられないが、“酸溜溜”を“很酸”と言い換えられるのは、両者の意味範囲が異なるからである。同じ感覚を表す際でも、感覚共有語の Ass が表す感覚的意味は A の一部分だけであろう。すなわち、Ass は ss により、表す感覚的意味範囲が狭くなっている。

A が意味核となる Ass 型形容詞は全体的に見ると、ss によって限定され、感覚共有性が弱まり、表す感覚的意味が具体性を伴って狭められることが明らかになった。

6 ppA における感覚共有性

本稿が収集した 5 語の ppA 型形容詞のうち、A が感覚共有語であるにもかかわらず、“麻麻亮”“啧啧香”“蒙蒙亮”という 3 語は 1 種類の感覚しか表せない。“亮”の ppA 型“蒙蒙亮”を例として挙げる。

- (17)a. 天刚蒙蒙亮，他就带上电工赵叶林和乡校长陈安保，冒雨出发了。(視)

(日がちょうどぼんやりと明るいになったら、彼は工事屋さんの趙葉林と校長の陳安保を連れて、雨の中を出発した。)

- b. *过了一会儿，我也听到一个蒙蒙亮的声音从远处的树林中慢慢传来。(聴)

(*しばらくした後、私もぼんやりと明るい声が遠い林の中からゆっくりと伝わってくるのを聞いた。)

(17)a は“蒙蒙亮”が視覚を表す例文であり、b はキーワードと“蒙蒙亮”を入れ替えて不自然になった聴覚を表す文である。前述で述べたのと同様に、“蒙蒙亮”は“蒙蒙”によって、意味が具体化され、空がぼんやりと明るいというイメージを表し、聴覚を表すことができなくなっている。

残る“溜溜光”“溜溜平”という 2 語は触覚と視覚両方を表せる感覚共有語であるが、

使用できる場面は意味核の“光”“平”よりかなり少なくなっている。

したがって、A が意味核となる ppA 型形容詞は比較的生産性が低い、pp によって特化されるため、表す感覚的意味が減ったと考えられる。

7 まとめと今後の課題

本稿では中国語の単音節形容詞が意味核となる重ね型における感覚共有性について考察し、下記のことを明らかにした。

① 単音節形容詞 A が重なって AA 型になると、感覚共有性は変わらないが、意味範囲が狭められる。

② 単音節形容詞 A が意味核となる Ass 型形容詞は ss によって特化され、感覚共有性が弱まり、より限定される方向で意味範囲が狭められる。

③ 単音節形容詞 A が意味核となる ppA 型形容詞は pp によって特化され、感覚共有性が弱まり、より限定される方向で意味範囲が狭められる。

本稿では、単音節形容詞が意味核となる重ね型形容詞はそれを重ねることにより意味が狭められることを明らかにしたが、この変化の具体的な要因などはさらに調べる必要がある。今後は、意味が狭められる具体的な要因及び重ね型形容詞の統語的な役割の変化も調査する必要がある。

参考文献

- 相原茂、荒川清秀、大川完三郎ほか(編)(2004)『東方中国語辞典』東方書店
- 王国璋、吴淑春、王干桢、鲁善夫(編)(1996)『现代汉语重叠形容词用法例释』商务印书馆
- 井出克子(2001)「中国語五感表現に見られる共感覚に基づく比喩について」『中国語学』2001(248): 213-227.
- 武田みゆき(2001)「中国語にみる共感覚比喩についての一考察——擬音語の擬態語化をめぐって」『ことばの科学』14: 107-118.
- 趙寅秋(2014)「擬音語の擬態語化についての日中対照研究——日本語『ABAB』型オノマトペ両用語と中国語『ABB』型形容詞を例として」『比較社会文化研究』(35): 41-51.
- 刘月华(1983)《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
- 牟云峰(2005)〈感觉类形容词的词义演变—从自身感觉到认知世界〉《第六届汉语词汇语义学研讨会论文集》142-147.
- 石钺(2010)《汉语形容词重叠形式的历史发展》商务印书馆

王峰 (2015) 〈现代汉语单音节形容词重叠 AA 式的原型效应〉《関西外国語大学研究論集》
101: 41-51.

王国栓 (2004) 〈汉语形容词 AA 式重叠与量范畴〉《汉语学习》4: 24-27.

王晓炜 (2002) 〈论汉语词汇中“ABB”式形容词的修辞特征及功能〉《内蒙古社会科学(汉文
版)》2002(S1): 119-122.

肖潇 (2012) 〈浅析通感隐喻在汉语 ABB 式形容词构成中的作用〉《时代文学(上半月)》
2012(02): 131-133.

(桂雯 筑波大学大学院生)

Cross-modal Property of Reduplicate Adjectives in Chinese: Focusing on the Reduplications of which Nucleus are Monosyllable Adjectives

GUI Wen

Focusing on the reduplications of which nucleus are monosyllable adjectives as the research objects, this paper investigated the changes of cross-modal property after monosyllable sensation adjectives turned into reduplicate adjectives in Chinese. Based on a comparison of monosyllable sensation adjectives and reduplicate adjectives of which nucleus are these monosyllable adjectives, the conclusion of this paper is summarized as follows. After monosyllable sensation adjectives reduplicating into reduplicate adjectives, the cross-modal property is maintained unchanged but the semantic range has narrowed down. After reduplicate prefixes or suffixes are added, the cross-modal property have weakened and the semantic range is has narrowed down.